

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(南)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様を尊厳する、人間として尊厳をもって、日々心新たな気持ちで精進いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設した当初からの年月は最高齢100歳という超高齢化という現状に表れ、代表の熱い思いが込められた“一期一会”を全職員が共有し、医療機関の協力や日々の健康管理の徹底により和やかな日常を支援している。ユニット毎に違いはあるものの、ゆったりとした中で、歌ったり、俳句を詠んだり“らしく”に注視したケアも垣間見えるホームである。ホームの持つハード面(多目的ホール等)での開放が、地域住民との交流促進として生かせる等地域の中にしっかりとした基盤が築か、運営推進会議を活用した運営や白梅便りによる家族への情報提供等継続した取り組みは家族との信頼関係や地域との関係性を強化させており、今後も家族や地域の声を生かしながらの運営に大いに期待したい。訪問時には緊急体制(職員の適切な対応や医療との連携)や家族の重要性が確認され、重度化傾向にある入居者への支援に、代表や管理者を中心に真摯に取り組まれているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同、理念の確認をふまえ何事も後悔のなきよう介護、介助に努めてる。	開設時からの理念を継続し、日々のケアの中で尊厳の気持ちと先を見越したケアに努めることを共有し、入居者が自分らしく、ゆったりとした日常生活の中で歌ったり、と個々の気持ちに寄り添っている。定例会議の中で、理念に即しながら職員の勤務姿勢等を表明するとともに、地域への啓発に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、積極的に参加し顔見知りも増え事業所自体が地域にとけこんできている。	地域の中のホームとして、神社での散歩が住民との接点として生かされ、地区の総会への参加や花植えや清掃活動等に出向き、これまで参加できなかった地域の行事(玉入れ大会等)等地域との交流が促進されている。子ども110番の受託や登下校の子供たちとの挨拶等も入居者の笑顔を引き出し、地域住民により折り紙教室も住民との交流として生かされ、ホームも台風時の避難場所として地域に開放する等開かれたホームとして地域に根付いている。	子ども会とホームとの交流を呼びかけが、多目的ホールでの絵画教室として開放する等地域の中のホームとして位置付けられている。このことをきっかけとして入居者と子どもたちとの交流に更につながるものと大いに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、入居者の状況や出来事、支援内容について活動報告し認知症の理解を求めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年6回行い、現状報告及び活動報告をし、様々な取組について意見交換を行いサービス向上に努めている。	運営推進会議は年間の計画を立て開催、議題により協力医による感染症対策に講話やADEによる救急法の講習等を行うと共に地域との交流や地域交流室の利用方法、消防団との交流等の話し合いが行われている。参加委員からの意見がホームの持つハードの開放となり、そのことが地域との接点として生かされている。	家族にも議事内容は白梅の里便りにより発信され、充実した会議であることやメンバー構成も充実していることも確認された。委員からのアドバイス等の進ちょく状況や結果等も記録に残すことを検討いただきたい。また、職員の教育ツールとして一環としてこの会議が生かされることを期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき、行政担当者は異動がある中、顔を覚え相談助言の協力など頂いている。	理事長はことある毎に行政に足を運ぶ、アドバイスを受け運営している。事故報告提出や、職員加算を検討するにあたり相談に出向き、情報交換を行う等協力関係を築いている。また、年に1回は宇城地区のブロック会議に行政の参加もあり、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り重視し、身体拘束をしないようにしている「ちょっと待って！」もないように思っているが、待っていただいた時は、「お待たせしました、すみませんね」と一声かけている。	外部研修への参加をもとに、ホーム内で復講により拘束及び虐待について認識を深めている。特に職員の言葉遣いについては、入居者のみならず職員同士の会話についても常に注意喚起している。入居者の外出傾向等個々の状況を把握し、本人の気持ちに寄り添い、一緒に付き添っており、抑制の無い生活を支援している。転倒防止の為、家族の同意の上、センサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8/28「権利と虐待について」の勉強会を施設で実施し、理解を深め情報交換を行うことで、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会等へ参加し理解を深めて活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度、介護加算の申請を行う事で、利用料上がる事の説明し、理解を頂いた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族様からの意見を聞いて運営に反映している。	入居者にはに日の関りの中で聞き取りしている。利用料金を持参払いとし、訪問時に意見や要望を聞き取りしている。家族宛には毎月ホーム便りにより日々の活動や定例会議・運営推進会議内容等を載せ発信し、この中で意見箱の設置場所等も記載している。花見が家族が一堂に会する機会として生かされていると共に、運営推進会議も問題提起の場としていることも、避難訓練に家族も参加したかどうかとの意見により家族も参加されていることに表れている。	家族からの感謝の言葉等家族らの言葉の良し悪しに関わらず共有することで職員のモチベーションとして生かされることを期待したい。また、ホーム独自にアンケート調査を行うことを検討したいいただき、家族の忌憚の無い意見等をサービスに反映いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、色々な行事や食事メニューなどスタッフの意見を聞かれ決定される。	毎月の職員会議により職員の提案である冬時間体制（勤務）や食時間等合議により決定している。各ユニットの管理者は職員とのコミュニケーションを図り、職員も管理者を盛り立て、報・連・相の徹底等申し送りノートを活用しながら情報を共有している。職員体制に大きな変動も無く、輪番での外部研修参加や希望休等働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休など事前に聞いて頂き、働きやすい職場である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外研修に協力的で、大変勉強しやすい環境である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームで会議や勉強会を開催し交流を深め介護のスキルアップを計っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	皆様平等に関わるというのはものの、新しく入居される方には、少しでも不安なく早く馴染んでいただけるよう、コミュニケーションを多くもとうとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご面会に来られた時は、必ず近況報告をし、又ご家族様からも、なんでも話して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に、ご本人様とご家族様がどのようなサービスを求めているのか、安心していただける最善のサービスをしたいと努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の家事活動を通して、得意分野で力を発揮して頂き、まだまだ自分で出来る事があると感じてもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の気持ちを、ご家族様に電話でお伝えしたり、ご面会を一番喜ばれ、待ち望んでいらっしゃる事をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご親戚の方との交流が持てるよう、電話をとおしてお越しいただき、思い出づくりのご支援に努めている。	馴染みのかかりつけ医の継続、日々神社を参拝しみんなの幸せをと祈る方、職歴から自分の1日をこと細かにメモとして残したり、趣味である俳句作りや昼食を見ながら昔を思い出される等これまでの生活が継続されている。また、職員には無い絆が家族にはあることが訪問調査時の緊急対応に表れていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、テーブルの席を考えて座っていただいている。楽しく会話されていらっしゃる事が多くなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去なされた、ご利用者様の様子を伺いにいったりして、つながりをもつようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフに日中の出来事や喜ばれた事等聞いて意向の把握をしている。	入居者の中には直接職員に飲みたい物の注文や食べたい物を申し出るかもおられるが、意思疎通が難しい方にはうなづきによる確認や表情等による推察している。耳の聞こえにより声の高低やジェスチャー・筆談等より入居者の意向等を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、ご本人との会話の中に今までの暮らしぶりを受け止めたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの力が年々、又数か月で変化しているので、他のスタッフの意見も聞いて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員出席のもと担当者会議を行い、それぞれの立場からの意見を出し合いプランに反映している。	ケアマネジャーの変更に伴い、アセスメントを取り直し、意思確認の難しい入居者には職員からの情報により、自立に向けた新たなプランを作成している。2ヶ月毎に担当職員が書面で意見等を出し、24時間シートにできる事や援助内容を入れることでケアを統一し、優しい・安心な声かけで尊厳を持った介護等理念もプランに反映させている。家族へ説明し、同意を得たプランは職員へは回覧により周知としている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、観察表、個人記録に毎日の状態を記載し情報の共有にあてている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族に確認をとり、かかりつけ医と連携を図りながら多方面にわたりサービス対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方のボランティア等施設訪問され、交流は図られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の受診や往診を受けていただき、体調管理に努めている。急病に対しても往診して頂き適切な治療を受けられるよう支援している。	希望するかかりつけ医の往診や受診をホームで対応しているが、現状を共有するために可能な限り家族の協力を呼び掛けている。職員はバイタルチェックや日頃の関りの中で、健康状態を把握し気になることがあれば早めに協力医へ相談している。運営推進会議での講話や緊急時の対応等医療機関機関との関係性が訪問時にも垣間見られ、協力関係が築かれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日報告の中で、状態の変化に気づき、管理者に伝達されアドバイスを受け介護に当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供し、又、入院中の情報も把握しながら一日も早い退院ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的に、ご家族様の意向を聞き現状を常に説明し、状況を知って頂く。事前指定書に記入する事でより一層終末期に対するケアを充実させ、ご家族様も満足される支援を行っている。	ホームでの看取り支援は、契約書の中に示し説明を行い、最終の支援(尊厳死など)については、必要に応じて聞き取りし、この1年でも医師や家族の協力のもと看取り支援が行われている。支援にあたっては職員のメンタル面にも十分配慮し、管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、夜勤時の不安軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自研修で学び、知識を深め実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練等に職員が参加している。今後ご利用者様と共に、色々な避難訓練を重ね、全職員との協力体制を構築する。	火災や津波避難訓練など計画的に実施し、訓練の様子や今後の取り組みなど運営推進会議の中で詳細に報告している。また、運営推進会議の中で地域消防署よりのAED講習が行われ、呼びかけにより家族の参加も行われている。近隣との協力体制も重要として、消防団にホーム内を見てもらう案が出されているが今のところ実現していない。台風時は地域の方の避難場所として受け入れ、宿泊や食事提供などホームに出来る限りの支援を行っている。	運営推進会議では災害対策について、様々な意見や提案が行われており、今後も参加委員の提案を取り入れながら、入居者の安全管理に努めていきたい。また、消防団によるホーム内の確認も実現されるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	代表者が、常日頃から一貫して教育している、尊厳を持った介護、言葉使いに注意し対応している。	一期一会の精神をもって、一人ひとりにあった「寄り添いのケア」を大切に日々の支援にあたっている。入居者には一歩下がり、介護は一歩前に進む気持ちで支援することを代表者は指導している。会議の中では、入居者の尊厳や職員の身だしなみを含め配慮する事項が伝達されている。広報誌で入居者の誕生日や米寿・白寿などの長寿者を紹介する際も、尊厳を払った文章が記されている。	入居者の誕生会では、祝いの幕や鯛の塩焼きを祝膳として用意することが開設時から継続されている。今後も人生の先輩である入居者とのご縁を大切に支援を継続していきたい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人が自己決定できる環境づくりと、自己決定不可能な方からは、顔の表情や態度から思いを知り、ご希望にそうよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごして頂けるよう、日々の生活の中でコミュニケーションを交えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度で、髪の毛のセットなど支援、ヘアカラーの支援などで、笑顔がみられるので、満足されていると思われる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に使用するオシボリたたみや、食後には、お盆拭きのお手伝いなどして頂き、ご利用者とスタッフが食事をとり家庭の雰囲気をご支援している。	献立は主食に麦を加えたり、季節感を取り入れながら半月ごとのサイクルで作成し、専任者や職員で調理を行っている。献立表には味の吟味や入居者の楽しみとなる食事を提供することが記されており、カロリーなど栄養面の相談は法人の栄養士に依頼している。職員は同じものを一緒に食べることで思いを共有し、入居者の発した一言を味付けなどに反映させている。	中庭での花見や敬老会には家族にも参加を呼びかけ、入居者と一緒に食事を楽しまれている。今後も味見やおしぼり巻きなど入居者のできる事で食への関りを継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の持病等も考慮し出来る限りの体調管理又、ご利用者様が食べやすい形態や好み、量に配慮し、殆どの方が完食されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、必須で声掛けと介助の必要な方には支援し、口腔内の清潔と誤嚥に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	24時間シートにより個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた誘導や声かけ、排泄用品を検討している。日中は可能な限りトイレでの排泄を支援し、オムツの方もその時々で本人の希望があれば、2名介助など連携しながら対応している。夜間もトイレへの誘導やポータブルトイレ、おむつなど個々に応じて支援し、オムツ交換時は衣類やシーツのしわを伸ばし、褥瘡予防や不快感がないようにしている。ホームはトイレ数を多く設けているが、車いすの方も増え、対応可能なトイレが混雑する場面もあり、早めの対応で失敗のないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認は、毎日行い、排便コントロールは、その人に合った支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体力を考え、一日おきに入浴して頂き季節を感じられる入浴風呂にしたりして楽しんでもらっている。(柚子・菖蒲湯等)	毎日入浴の準備を行い、一日置きとして毎日の希望にも対応している。開設時に露天風呂も設けられたが、現在は介護度も高くなり使用が困難になり、一般的な個浴で安全な入浴に取り組んでいる。脱衣所には着替えなどを入れる個別のロッカーが設置されている。菖蒲や柚子を使用し季節湯を楽しみ、失禁時のシャワー浴(足湯をしながら)等清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の年齢を考慮し日中でも居室で横になって頂いたり、足の浮腫がみられるご利用者様には少し足を上げて日中を過ごしてもらったりと工夫して休息して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべて職員が預かり、毎回飲まれるまで確認し支援している。薬の変更があった時は申し送りノートに記入し伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のお盆拭き、洗濯物たたみなどの手伝いをして頂き人の役に立つ喜びを感じてもらいたいと思っています。縫物ができる方には、雑巾を縫って頂き、その人らしい時間を過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では、重度化もありなかなか戸外へ出かける機会が減っている。ご家族様と皮膚科に行かれたり、ドライブに行かれたりされる事はある。	入居者の身体状況も異なることから、全員での外出は困難になっているが、初詣や初市・花見物(桜・紫陽花等)、隣町の地蔵祭では車中からの見物等支援している。ホーム前の自販機の利用を日課とされる方や散歩など個別で対応している。家族の協力としては受診や法事・墓参での帰省などが行われている。	今後はもっと地域資源を活用した外出支援に取り組みたいとしており、外に出ることは入居者の日常の活性化として生かされることと大いに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちのお金はないご利用者がほとんどですが、近くの神社にお参りされる時のお賽銭は持っておられ、だされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や兄弟に会いたくなられたら、帰りたいといわれる為、お声だけでもと、電話してお話され安心される。電話支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁などに、写真をディスプレイしたり、ちぎり絵を作成して頂きそれを張って自分の名前を見つけて喜ばれる。	清潔や整頓を心掛け、入居者が安心して過ごせる共用空間に努めている。掃除は日頃からの徹底と特に年末は入居者に気持ちよく新年を迎えてもらえるために、会議の中でも周知を図っている。食堂や洗面所など共有空間には、観葉植物やホーム敷地内などに咲いた季節の草花を飾っている。両ユニットは玄関から左右奥行きのある場所にあり、入居者は双方を歩行訓練やお隣さんとして行き来するしている。両ユニットは採光具合も平等を考慮して設計され、入居時や退院時は代表者の書により歓迎やお祝いの幕を下げる事が継続されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの意思を尊重し見守りにて対応している。一人で過す事を希望される人に関しては孤立されないようにスタッフとの会話で安心できるよう努める。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自分の好きな物を置いて、自由空間づくりに支援している。	入居者が自分らしく、楽しく、ゆっくりと生活できる場所作りを法人理念に掲げ、専門性を活かした環境作りに努めている。入居時の居室の準備品として、新たに購入する必要はなく、馴染みや使い慣れた物を持ち込んで欲しいと伝えている。介護度から備え付けのベッドでは、本人にも負担がある場合は、家族と相談しながら適切な介護ベッドに変更されている。十分な広さと掃き出し窓の居室には、ソファや家族の写真や俳句・短歌作品の掲示、持ち込まれた仏壇に初物を備えられる方もおられるなど、個々に応じた部屋となっている。居室で保管しきれないものはホーム私物庫で管理されている。	クロゼットが開いた居室が見られたが、本人の希望などがあれば別であるが、プライバシーの点からも閉めておくことが望ましいと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力が生かせるよう出来る限りの安全な環境作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(東)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一期一会の理念を基に、全職員はご利用者様の尊厳や自立支援を図ると共に、ご家族様との信頼関係を構築できる様努力し、日々のケアに取り組んでいる。笑顔が引き出されるケアに取り組む。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会の理念を基に全職員は、ご利用者の尊厳や自立支援を図る事を念頭に、笑顔が引き出されるケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者は、出来る限り地域の人と接して頂ける様に地区の福祉会の参加や催しに積極的参加、近隣の散歩の時に交流が出来る機会を作る。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	白梅の里のありのままの姿を地域の皆様に見て、接して頂いている。これからは、ホームから地域の人々の為に、私達の知識をお話したり、アドバイス出来ればと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年六回の運営推進会議を開催している。テーマに基づきさまざまな意見を出して頂き、ホーム運営やサービス向上に活かしている。その時に地域の情報も得る事が出来る。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は常に行政に出向き、相談やアドバイスの指導を受け、課題解決に共に取り組んでいる。十分な連携を図り、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に出席したり、勉強会を開いている。玄関は夜間以外は施錠せず外出したがるご利用者には、職員が見守ると共に同行したりしながら本人の気持ちの寄り添っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関したセミナーに積極的に参加し、勉強した事を他の職員と共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーに参加し勉強してきた事を他の職員にも伝達し、資料等も配布して共に学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約はもとより、改定等もご利用者やご家族様が納得されるまで、説明を行っている。同意を得てから契約を結んでいただくよう努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、ご利用者、ご家族様には、いつでも遠慮なくご意見、ご要望、苦情等をお聞かせ下さいとお願いしている。その様ないろいろな事を言えるような関係作りを心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が気兼ねなく、気付きや意見など言える職場作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設けるなど、皆楽しくやりがいを持って仕事をしている。勤務希望シフトなども考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人が希望や推薦により、セミナー等に参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議や、勉強会に参加し、他の事業所の人とコミュニケーションを図り、お互いの施設のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始に限らず、利用者に対して受容と傾聴を心がけて、言葉だけではなく表情からも訴えを聴き取り安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や利用開始まで、本人の生活歴ではなく、生活現況や心身状況を聴き取り、本人やご家族が困っている事や要望を明確にすることで、安心して頂けるような良い関係作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の際、そのニーズがグループホームに合っているかを見極め、その方の状況にあっている支援はないかを検討しながら対応します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴やご様子、言動から本人の役割を考えケアに取り入れたうえで、支えあう関係を築いています。一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行うことで、共に暮らすもの同士支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のご様子などを面会や月一回のお便りでお知らせしたり、必要に応じて電話などで連絡相談しています。家族にも出来るだけ協力して頂き、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの方と会う機会を設けたり、馴染みの場所を訪れたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や個性を観ながら、席を配慮したり、その時々で変化をつけながら気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、入院先に面会に行ったり、ご家族に様子をお聞きし、つながりを継続しています。ご家族様も訪ねて来られます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様から意向を聞き又、毎日の生活の中から見出し、サービス計画に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から、入居時の聴き取り調査を収集し把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する能力が最大限に活用できる様、状態変化の気づきを把握し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員出席のもと、担当者会議を行い、それぞれの立場からの意見をだしあい、プランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、観察表、個人記録に毎日の状態を記載し、情報の共有に当てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせ、歯科通院・眼科受診等かかりつけ医以外、ご家族と相談のうえ、多方面にわたりサービス対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院、かかりつけ病院等出向ける方は同行支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の受診や、往診を受けていただき、体調管理に努めている。急な病気に対しても往診をして頂く等適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の報告の中で、状態の変化に気付きかかりつけ医に相談し、アドバイスを受け介護に当たっている。又、必要時受診できる仕組みになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供し、又入院中の情報も把握しながら、一日も早い退院ができればよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的にご家族との意向を聞き取りながら、現状態を常々説明し状況を知って頂く。事前指定書を記入する事、よりいっそう終末期に対するケアを充実させ、ご家族とも満足される支援を行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自研修で学び、知識を深め実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災はもちろん、地震や津波時の避難計画を検討しおえ、地域の避難訓練等に職員だけが参加している。今後ご利用者と共に避難訓練を重ね全職員との協力体制を構築する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、尊厳の念をもち言葉使いや口調に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも傾聴する姿勢を持ち、相手に合わせた対応を心がける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のニーズの把握に努め、個別に配慮しながら、様子に合わせて支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望された方は、定期的に訪問美容室にきてもらい、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が持てる献立を考えて提供したり、利用者の意向に添った献立をいれたりしながら食べる事を楽しんで頂いている。お誕生日は、ご本人の食べたいメニューにして誕生日会を行っている。手作りおやつと一緒に作ったり、マイ箸を使用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事形状や量、制限が違うため、留意点把握する。熱中症対策として、時間を見ては早めの水分補給にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保つと共に、誤嚥性肺炎の予防に努めています。義歯は夜間浸け置き消毒しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えにすぐ対応し、排泄パターンや時間を観ながら誘導しています。ご自分で出来る方は、見守りをし出来ない方のみ支援を心がけます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、水分摂取や食事にも配慮し体操等参加して頂き、自力排便に繋がるよう努めできない場合は、医療と連携し排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に一日おきの入浴を勧めているが、希望する人に対しては、関係なく入って頂き、体調みながら無理強いしないように努める。菖蒲湯など季節によって入浴も楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせ自由に休まれたり、眠れない場合は、担当医師の指示のもと、眠剤等の処方をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員管理にて指示通りの服薬をしている。常にかかりつけ医との連携を図っている。内服薬に関しては利用開始や内服薬変更時は情報を提供しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に、アセスメントした中で、生活歴の中の趣味や得意な事を見つけ発揮できるよう機会を作ります。生活の中に役割や生きがいを持っていただくように導いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜見学やあじさい見学、祭り等参加しています。家族による法事や墓参りなど協力も得られている。希望される利用者には自宅への外出支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりにお金の状況は説明を行い、ご自分で管理できる方は、利用者の希望に応じてお金を所持したり、使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人希望により、いつでも連絡出来るように電話にしても、手紙にしても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、清潔を心がけ、安心、安全な空間作りを目指している。季節を感じ花の香りにより癒しの空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等にソファを置き、テレビ視聴、新聞等見ていただき、なるべくその人の心地よい場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの物を置いて頂き、自由にゆっくりくつろげる空間であるように支援する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、その力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫している。		